

成果指標				
成果指標	人工数÷総申請件数			
指標設定の考え方	総申請件数に対する人工数を下げることによりコスト縮減が図れる。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	目標26年度
目 標	0.42	0.42	0	0
実 績	0.44	0.42	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	境界確定や用途廃止の事務量が多く、維持補修管理に要する経費も今後増大傾向が予想される。法定外公共物については市民生活に密接に関わっており、住民からも改善等の要望が多く見られる。個人の財産としての水路等も存在し、法定外と混同されることもあるため、財産管理、機能管理の位置づけを確認しつつ、今後も環境の改善等快適な市民生活を営む上で適切な取り組みが求められる。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	法定外公共物の生活道路はセットバック部分における障害物を設置する市民がおり、それらのトラブルを防ぐ目的で他市町の事例を参考に要領等を定め、管理できるようにすることでトラブルを未然に防げるよう対応していくことも今後の課題である。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。
意見、課題	自己評価の課題認識も妥当性があることから、評価として記載を求む。

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

下記の点を見直しの上、継続する。

意見、課題

二次評価の内容を踏まえ見直すこと。